

ドクターEのお悩み相談室



その1
～GERD～
胃食道逆流症

絵と文 しおび

当クリニック某医師による漫画です

おなかの悩み・・・

教えて！ドクターE！！

どんどん解決していきたくて
思っております。
皆さん気軽に相談くださいね！



ドクターEには負けません・・・
フフ・・・

初めまして！
ドクターEと
申します。このコーナーでは
皆さんのお腹に関する悩みを

症例1 35歳 女性

症状：胸焼け、ゲップ

既往歴：特になし

最近の悩み事：子育て大変です。エステに行く時間もなくて、
ストレスが半端ないです。
寝不足です。

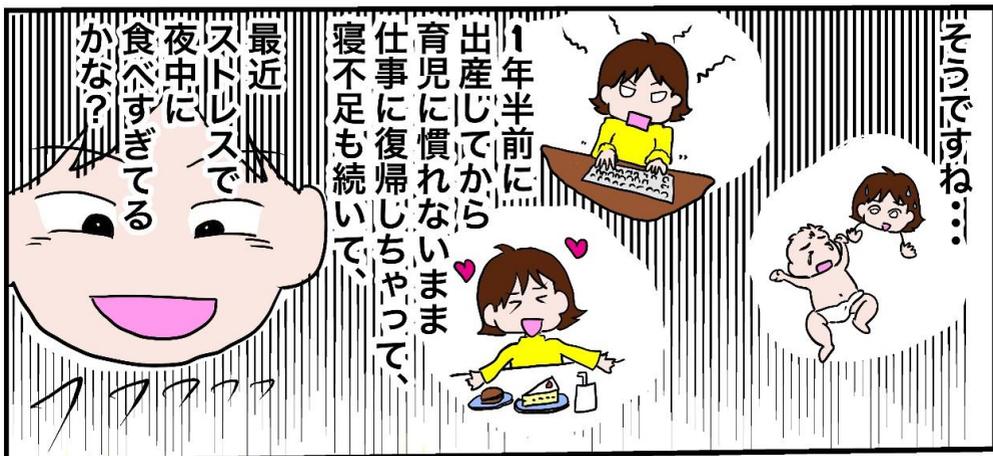


早速来てますね！

あっ！！

ドクターE...





胃食道逆流症(以下 GERDガード)

胃液や胃の内容物が食道へ逆流することにより、様々な症状が起こる病態の総称。

症状は下記のようなものが挙げられるが、繰り返す症状は非常に辛く、日常生活(QOL)を著しく低下させることが言われており、近年治療の必要性が高まっています。

症状からはこちらの疾患が第一に考えられます



【呑酸】

(酸っぱいものが上がってくること)



【喉のつかえ感、閉塞感】



【から咳、イガイガ】

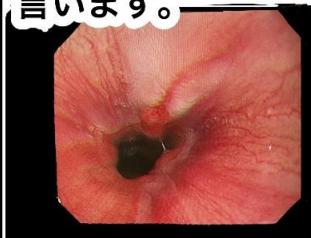


【睡眠障害】

その他、胸痛、食欲低下、声枯れ、などなど…。



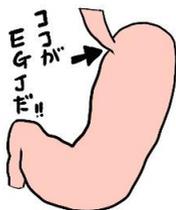
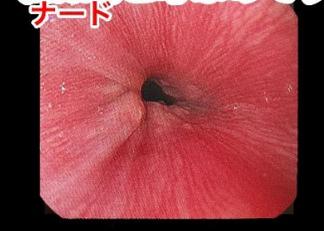
一般的に認知度の高い
「逆流性食道炎」とは、内視鏡所見で
EGJに炎症(びらん)を認めるものを
言います。



胃食道逆流症(GERD)は、内視鏡検査を
行うことでさらに2つの
病態に分けられます。

内視鏡検査では主に、
食道胃接合部(EGJ)の観察を行い、
食道側に炎症(びらん)の所見があるか
どうかを見ます。

一方、内視鏡所見で異常を認めないにも
かかわらず、同様の症状を呈している
場合を、「非びらん性胃食道逆流症」
(NERD)と呼ぶのです。



ということで数日後…





非びらん性胃食道逆流症 (NERDナード)

前述のように、GERDが疑われる患者様は、他疾患の否定も兼ねて内視鏡検査が推奨されます。

胃食道接合部 (EGJ) の観察において

NERDとは、症状はあるが内視鏡検査でEGJにびらんの所見を認めないものをいいます。



大丈夫ですかー? 起きれますかー??

大丈夫ですかー!





【治療】

GERD(ガード)治療のメインは薬物治療です。胃酸の分泌を調整する薬を用いて、過剰に逆流している胃酸の量を減らします。

さらに、逆流性食道炎の場合は、要因がはっきりしている場合は(体重増加、姿勢、胃酸を多く出す食べ物の過剰摂取など)要因の除去に努めます。

NERD(ナード)の場合は、ストレスや環境印象が要因になっていることが多く、薬物治療だけでは改善に乏しい場合もあり、並行して生活の見直しが必要となります。また、必要に応じて、抗不安薬や消化管蠕動改善薬を併用することがあります。





NERDの原因は様々です。
純粋な胃酸の逆流の他に、

精神的な要因や、他の消化管蠕動運動
などの、実は酸の逆流と関係ない病態も
含まれますが、

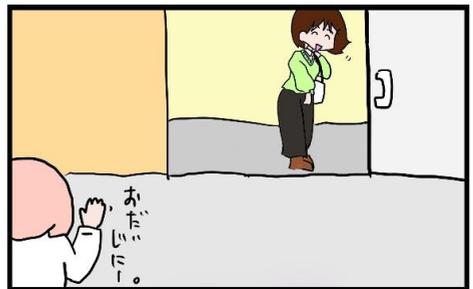
臨床的には区別がつかない為、NERDとして
扱われることが多く、今回もこのケースに
当てはまります。

私見ですが、この
病態は頑張っている
人に多くみられる
印象です。

私は勝手に
「頑張りすぎ病」と
呼んでいます。

あなたも
がんばりすぎた
んですか。

先生...!!!



～あとがき～

皆さんこんにちは。今回より始めました「ドクターEのお悩み相談室」いかがだったでしょうか。最初のお悩み相談でしたのでうまく説明できているか不安ですが、なんとなく疾患と、そしてE子先生に親近感を持っていただけたのであれば、第一回目としては大成功かもしれません^^。

さて、今回疾患の診断に至る過程で行った内視鏡検査ですが、若い世代の方にはまだまだ浸透していない消化管検査の一つです。

なぜ浸透しないのか？

なぜ症状があって困っているのに受診しないのか？

それは・・・

「苦しいから」「怖いから」「先生に怒られるらしい(?)」

そんな悪いイメージが強いから、ではないでしょうか？

誰だー！そんな悪いイメージ作ったのは～！

・・・あ。昔の私たちか・・・。

私が研修医を終えて消化器科医を目指した頃にいた病院では、内視鏡室のどこからかは必ず「いたーい！」と叫ぶ患者さんの声と、「もう少しだから！」とこちらも叫び声が聞こえて来たものです。

内視鏡検査はいくら施行医が上手でも、完全に苦痛や不安、羞恥心を取り除ける検査ではありません。

症状があって辛いのに、昔内視鏡検査で嫌な思いをしたからもうやりたくない。

そうしているうちにおなかの病気はどんどん大きくなって行って・・・。



最初に痛い思いさえしていなければ、症状が出た時もっと早く受診できていたはずなのに。
もっと早く検査してれば、助かったかも知れなかったのに。

この理由で病院に来れない患者様がどれだけ多いことか。

そしてこの苦痛体験をした人たちは次の世代に「検査は辛く怖いもの」という情報を与え、それを聞いた人たちはまた、受診の機会を逃すのです。

我々はそんな恐怖や不安を取り除いてあげたい。
安心して受けれるよう、手を握ってあげたい。
少しでも病院に来るきっかけを作りたい。

そんな思いもあり、この漫画を作り始めました。

鎮静剤の使用は安全面の観点より、医師や看護師のスキルと、マンパワーも必要であるため、やりたくてもやれない施設もまだまだありますが、この漫画をみて、鎮静剤使用という選択肢も知っていただき、少しでも迷っている人たちが、「あれ？聞いていたよりもっと楽に検査受ける方法あるの？」と書いていただけたら、これまた執筆した甲斐もあるってもんです。

自覚症状は、目に見える傷とは違って、自分にしかわからないものです。

だからこそ、無理は禁物なのです。

骨折は「痛そうね、大丈夫？」って言ってもらえるけど、目に見えない身体の悲鳴は、自分にしか聞こえません。

鎮静剤は、安全に使用すれば本当に楽に検査を受けれます。
大丈夫です。

症状がある時は、迷わず病院へGo！

